

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 84 号 2021 年冬号

<http://nadogaya-biotope.com/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：小笠原 智 Tel 080-2259-4415

2020年総会中止について

会長 小笠原 智

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会が発足して19年目を迎えますが、総会の中止は初めてのことです。新型コロナの感染防止で毎月の幹事会も長机に一人ずつ座り、短時間で済ませてきましたが「非常事態宣言」が再度発出され、多くの会員での集会はできない状況です。幹事会も今後は必要最小限の開催としていきます。

昨年の活動においては名戸小の稲作学習（田植え、稲刈り、脱穀、ふれあいの集い）の中止、春・秋の生きもの観察会での市民参加の中止、会員の収穫祭や年末のしめ縄作りの中止と残念な一年でした。そんな中ですが、自然は新型コロナに関係なく四季の変化を見せ、ニホンアカガエルの早くからの産卵やホタルの飛翔、イチョウウキゴケの再発生等が見られました。ステイホームから少しでも解放されたい多くの市民がザリガニ釣りや散歩などで訪れて、3密にならないビオトープの存在を強く感じた一年でもありました。

今年度の役員改正で、残念ながら山村様と藺田様が体調回復に専念するために辞退されました。長い間ありがとうございました。また、久米様には副会長として名戸小や近隣地域との更なる交流向上にご尽力をお願いします。

今年もマスクをかけた観察会や草刈り作業、稲作作業等になりますが、感染防止対策にはご協力をお願いします。皆様のご紹介で新会員も多数入会していただきましたので、ビオトープでの時間を楽しく有意義に過ごせるよう努めていきます。名戸ヶ谷ビオトープの保全、育てる会の継続には会員皆様のご協力が必須です。本年も宜しく願い申し上げます。

副会長就任にあたって

久米 正宏

こんにちは！皆様、如何お過ごしでしょうか？

この度、1月の幹事会推薦で「副会長」に就任させて頂いた「久米」です。

私は、生来、体を動かすこと・自然と触れ合うことが好きな性分から、この会に参加させて戴いたのですが、気が付けば、既に12年が経ちました。出来るだけこの活動の参加を心掛けてきましたが、町会等の地域活動との兼ねあいから 精勤とはいかず、ご迷惑ばかりでしたが、やっと区切りがつき、好きな活動に専念出来る環境になりました。

「名戸ヶ谷ビオトープ」は、柏市が「水田生態系を復元させよう」と、この地の市保有地と一部の民有地・全体で約5000平方メートルを2003年2月に整備・発足し、2003年5月に、名戸ヶ谷小学校のご協力も戴き「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」が発足いたしました。

今年2月時点での「幹事会・第219回」「名戸ヶ谷ビオトープだより・第83号」等の内容・回数からも、欠かさず活動を継続をされて来られた幹事会・先輩諸氏・会員の皆様のご努力には、感謝と共に敬服の念を抱かずには居られません。

「生きもの多様性」、それは多くの生き物が様々なつながりを持って、バランスを持って生きていることであり、そのことは、この活動に参加されている方々の生き方そのものであり、暮らしを支えている基盤でもあると思います。コロナ禍で「人との絆」の大切さが実感されますが、この活動を通して、皆が楽しく触れ合うことが出来ればと思います。

- ・真に楽しく活動出来る会員の掘り起こし
- ・活動永続のための環境整備
- ・変化に対応したこの地の自然を取り戻す

ことを、小笠原会長・藤平副会長・幹事・会員の皆様と共に進められたらと思います。

微力ですが、老骨に鞭打って頑張りますので、皆様のご協力を切にお願いいたします。

ニホンアカガエル卵塊の観察会

1月30日(土)から2月27日(土)までの5回に渡り観察会を行いました。

去年は暖冬で早まりましたが、今年は平年の状態に戻った様です。

2月6日の2回目に三角池で1個を初確認、朝の冷え込みで氷が張っている状況でした。

2月20日の4回目ようやく気温も上がり67個の卵塊を確認、冬眠中の外来種ウシガエル成体を見つけて皆さんに生態、導入経緯等を説明しました。最終日の27日は大幅に増え

124個で、既に卵塊がくずれて孵化も始まっています。観察日以外にも、影山(賢)さんから17日39個、小笠原会長からも23日118個を確認報告ありです。又、高橋さん(女性)、小笠原会長の作成されたカエル卵塊数調査表(ニホンアカガエル卵塊数推移と気象データグラフ)が、皆さんへ配布され貴重な資料となりました。3月からはヒキガエルの産卵が始まります。無事に成体となって生き残って欲しいです。(藤平 三郎)

冬のビオトープ散策

高橋 紀子

今年の立春は 2 月 3 日、そして翌日 4 日には、関東で春一番が吹いたと記録されました。

ビオトープでまず春を感じるといえば、ニホンアカガエルの産卵です。木道から田んぼを観察すると、冬の間も水がたまっている場所に、こんもりと卵がかたまって点在しているのを見つけることができます。

昨年 2020 年は暖冬で、例年 2 月半ば頃から見られる卵塊が早くも 1 月末には出現し、驚かされました。しかし今年最低気温が 0℃を下回る日が多く、暖かい雨もなかったため、例年に近い産卵時期と卵塊数となったようです。昨年の記録からすると、今年の産卵



2021.2.20

はまだかと待ち望むような思いでしたが、20 日には 70 近い卵塊を確認することが

でき、ようやく早春

がやって来たというような気持ちになりました。それでも午前 9 時、池にはまだ氷が張っていました。

冬の間、ビオトープを見渡すと茶色く立ち枯れたヨシや稲の刈りあとが目立ち、生き物たちの目立った気配は感じられません。それでも隠れている虫や残された実をついばみに来る鳥を観察することができます。田んぼの中に、カモが歩いた足跡か、しっかりと泥に残されたフィールドサインを発見することもできます。



2021.2.4 コサギ

湿地に生えるカワヤナギは、冬芽が長い間固く赤い皮をまとっていましたが、日が経つにつれてふわふわとした特徴的な花芽があらわれ、その数を増やしていきました。そして 20 日には、先端に赤い小さな花をつけて、緑



2021.2.13

2021.2.20

の葉も目に付くようになりました。

同日、枯れ草をはらう作業を会員でしていた中、大きなウシガエルを見つけ捕獲。特定外来生物で、在来種の保護のためには駆除の対象となりますが、冬の間もひっそりと生き物が隠れている場所だということを実感します。ほか、コバネイナゴやカマキリは卵で、アゲハチョウは蛹で、テントウムシは枯れ葉の裏で固まって。それぞれの形で冬の寒さに耐え、またそれを糧にして、三寒四温の 2 月を過ごしています。



ウシガエル

本格的な春にだんだんと向かっていく、この時期のビオトープ散策もぜひ楽しんでください。

年	月 日	天気	気温	合計	Aゾーン	Bゾーン	参加者
2021	2月27日	晴れ	6°C	124	121	3	9名
	2月20日	晴れ	14°C	67	59	8	15名
	2月13日	晴れ	13°C	0	0	0	9名
	2月6日	晴れ	10°C	1	1	0	13名
	1月30日	晴れ	10°C	0	0	0	11名
2020	2月22日	曇り	13°C	65	59	6	2名
	2月15日	曇り	13°C	99	85	14	12名
	2月8日	晴れ	7°C	102	87	15	4名
	2月2日	晴れ	8°C	75	68	7	6名



ニホンアカガエル卵塊

孵化したオタマジャクシ

回生の里側広場のベンチを更新しました

ビオトープを散策する方が一休みするベンチが木村邸前歩道の回生の里側にもあります。昨年末、あまりに板が劣化して危ないことが判明したので、パイプの塗装と座板と背板の更新をしました。散歩する方から「ありがとうございます」との言葉を頂いています。



更新前



取り替えた板は足元に敷きました

女性用の更衣室 「ビオトープ小町更衣室」 を作りました

ビオトープではドロンコ汚れ作業となることが多くありますが、着替える場所がありません。特に女性会員は大変です。木村さんのご厚意で倉庫の端をお借りできましたので「更衣室」を作りました。狭いですが鍵付きの扉を設け、棚や鏡も設置していますので利用してください。



倉庫東側の更衣室



棚や鏡、椅子も設置しています

更新・製作者 小笠原会長

新入会員紹介

前島吉広さん

令和3年1月16日に入会させていただきました前島吉広69歳です。

ビオトープは散歩コースの一つで、よく通ることはあっても、別段興味を持つことはありませんでしたが、新年になって初のビオトープを通るコースを散歩した時に立て看板にて会の存在を知り、健康増進と広く知見を得ることを目的として入会させていただきました。

1988年遊水地の整備開始、2002年会の発足以来水田生態系の復元と多様な生態系の保全に努められてこられた歴史を知り感動しました。メンバーの方々もお持ちの才能を活動に生かされ楽しまれていらっしゃるの、これといった才能のない私ですが、その一角に加えていただけることに喜びを感じるとともに、大いにたのしんでいきたいと思っています。

よろしくお願い致します。



網永ひろこさん

この度入会させていただきました網永(アミナガ)と申します。中学生の娘と共に参加致します。娘の小さな頃から、ビオトープには散歩やザリガニを釣りに遊びに来て親しんでおりました。

彼女が名戸ヶ谷小の4年生となった時、東日本大震災後中止となっていた小学生の稲刈りが、ビオトープで行えるとなりました。その後、田植えも経験させていただきました。

私自身は土をいじった事はなく、もちろん娘もビオトープがなければ田作を経験することはなかったでしょう。彼女がもう少し大人になれば、これらが貴重で素晴らしい体験だったと感じると思います。

私はこれまで地域貢献をすることもなく、柏で20年を過ごしてしまいました。

サステナビリティやエシカルという、持続可能な社会を目指すための言葉が近年聞かれるようになりましたが、長い間それを実践している「名戸ヶ谷ビオトープを守る会」に参加できることを、とても嬉しく感じております。

前述しました通り、田畑仕事など全く経験のない身です。教えていただくことばかりですが、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

月例活動状況のお知らせ（12月から2月まで）

12月19日（土）

年末の大掃除を A、B ゾーンで実施。B ゾーン北側の道路沿い、A、B ゾーン木道沿いの草刈り、はみ出た竹、木の伐採を南側水路沿いへ運搬廃棄しきれいになりました。



Bゾーン中央木道沿い草刈り



水路脇へ草を運搬し廃棄



Bゾーン北側道路刈り完了

1月19日（土）

ニホンアカガエル産卵場所の A、B ゾーンの掘り起こし、ザリガニ池のヨシ刈取り、他草刈りを実施しました。カエルも安心して産卵できるでしょう。当日新規入会者 1 名が来場されて皆さんに紹介しました。



Aゾーン畔沿いの掘り起こし



Bゾーン中央木道沿い作業後



ザリガニ釣り場 作業後

2月20日（土）

A ゾーンの木道沿い、畔沿いの枯草刈取りと B ゾーン北側木道沿いのヒメヘビイチゴの養生囲い、カワセミ池のミズアオイの為整備等の作業を行いました。定例作業前の 9 時から、全員でニホンアカガエル卵塊の観察会を実施し、一気に暖くなり A、B ゾーンで 67 個と多く卵塊を観察出来ました。
(藤平 三郎)



Aゾーンの木道沿い、畔沿いの枯草刈取り



Bゾーン北側木道沿いのヒメヘビイチゴの養生囲い

3～5月の活動予定

3月 ● 20日：3月定例活動日（春の草花の観察・稲株踏み）

4月 ● 17日：4月定例活動日（肥料の散布・田植えの準備）

5月 ● 15日：5月定例活動日（田植え 予定日5日）

注）詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車
面積：約 4,400 m² 湿性生物：57 種 生きもの：161 種（内、千葉県指定保護生物 26 種）

（2013 年、年間を通じて観察した生きものの種類）